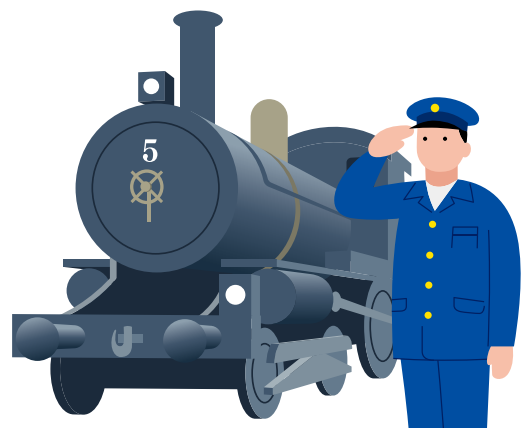


数字に見る東武鉄道



設立

1897年

東武鉄道は、栃木県南西部と群馬県南東部にまたがる両毛地域で産出した生糸の鉄道輸送を通じた地域産業の発展を支援することなどを目的に1897年に設立した。1899年に北千住～久喜間の営業を開始して以降は、運輸事業のほか、不動産事業、レジャー事業、流通事業などの分野にも進出し、地域経済成長の一翼を担ってきた。



車両数

1,775両

車両数は特急車両が157両、一般・通勤用車両が1,616両、内燃機関車が2両の計1,775両(2023年度末現在)。2023年には新型特急「スペーシア X (N100系)」を導入するなど、利用者の感動体験提供にも努めている。



資本金

1,021億円

資本金は1,021億円(2023年度末現在)であり、1897年設立時の265万円から着実に事業を拡大してきた。

従業員数

3,280人

平均年齢

48.1歳

平均勤続年数

27.1年



従業員数は3,280人で平均年齢は48.1歳、平均勤続年数は27.1年(2023年度末現在)。「採用」「育成」「能力発揮・定着」の3つの戦略的アプローチとその連携により、自ら考え自ら行動できる人材の育成を目指している。

鉄道営業キロ

463.3 km

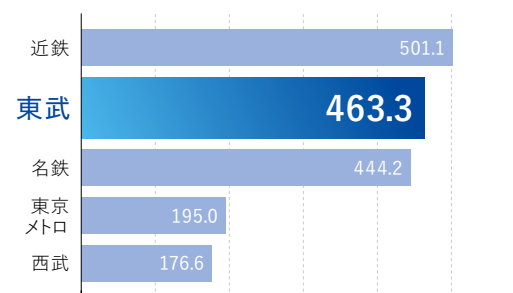
鉄道営業キロは463.3kmで、これは東京から岩手までの直線距離とほぼ同じ長さ。全国の手民鉄で2位、首都圏では1位の営業キロを誇る。東武鉄道は関東圏を広くカバーしている。



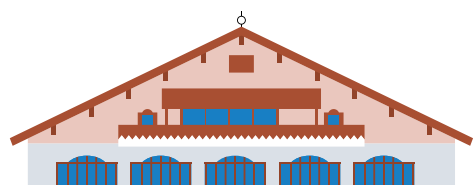
都県別鉄道営業キロ

埼玉県	175.2km
栃木県	136.1km
群馬県	81.2km
千葉県	40.6km
東京都	30.2km

大手民鉄の鉄道営業キロ(上位5社)
(2023年度末、単位: km)



※軌道線、第2種鉄道事業を含む



駅数

207駅

市町村別所在駅数

日光市(信号所含む)	14駅	春日部市	8駅	墨田区	7駅
栃木市	10駅	佐野市	8駅	柏市	6駅
足立区	9駅	板橋区	7駅	越谷市	6駅
太田市	9駅	さいたま市	7駅	野田市	6駅

1都4県(東京、埼玉、栃木、群馬、千葉)の総駅数は207駅(旅客駅205)。市町村別の所在駅数は日光市が14駅と最も多く、次いで栃木市が10駅と栃木県内の駅数が実は多い。その次に東京都足立区、群馬県太田市が続く。浅草、東京スカイツリータウンや日光・鬼怒川エリアといった観光地のほか、地方都市や子育て世代に人気の住宅街など多彩なエリアを有している。

輸送人員

8億3,692万人

運賃収入

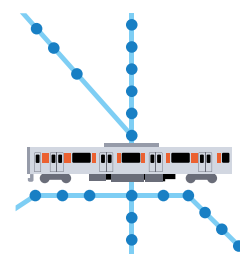
1,336億6,200万円

2023年度の輸送人員は8億3,692万人で、1日平均にすると229万人となる。運賃収入は1,336億6,200万円で、大手民鉄の中でも屈指の数を誇っている。定期を利用する方の輸送人員は全体の63%で5

億2,353万人。運賃収入は45%の598億5,600万円。定期券以外を利用する方の輸送人員は全体の37%で3億1,338万人。運賃収入は55%の738億600万円となっている。

路線数

12路線



12の路線を運営し、関東の大手民鉄の中で一番多い路線数を有している。最も歴史のある路線は1899年に開業した伊勢崎線で、長さも114.5kmと一番長い。一番短い路線は大師線の1.0kmとなっている。